

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー機関誌

2013年5月号

はなしあい

題字 元総理 片山哲 筆

発行編集人

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー
代表理事 小久保 正

発行所

日本クリスチャン・アカデミー
京都市左京区一乗寺竹ノ内町23
075 (711) 2147

NIPPON CHRISTIAN ACADEMY

第544号

二〇一一年三月十一日の東日本大震災以降のこの国の現実を改めて突きつけられる思いでいる。地震や津波による直接の甚大な被害、さらに福島第一原子力発電所の爆発後の状況は、依然として混沌としたままである。今なお一〇数万人の避難民が存在する一方で、「復興計画」は遅々として進まず、被災者支援活動も停滞していると言われる。

しかしその一方で、この国の政治や経済の局面は、いつの間にか震災以前のそれに復しつつあるかのように見える。ところで、私が仕える東駒形教会は一九二三年(大正一二年)の関東大震災の被災者救援活動の中から生れた。賀川豊彦と数人の若者たちが、神戸から上京して、最も被災の激しかった東京の下町、本所に TENT を張り、そこを拠点にして救援活動が始めた。今年は関東大震災からちょうど九〇年にあたるので、私たちの教会も創立九〇年を迎える。改めて古い資料や当時の救援活動の記録を読み直して、ハッと気づかされたことがある。あの震災

からわずか二二年後には一九四五年度の敗戦を迎えているという事実！この国独自の時代区分で大正期と昭和期を無意識のうちに区分してしまうので、大正から昭和への連続という側面が見落されがちなのだ。しかし関東大震災から第二次世界大戦への時間的な距離は想像以上に短いのである。

例えば、私が個人的に追いつけている満蒙開拓移民の最初の送出は、一九三二年六月のことであった。初めての満洲開拓移民は、東京深川から送り出された「天照園移民」である(東京の満蒙開拓団を知る会編『東京満蒙開拓団』)。

震災以降の時代を見据えて

関東活動センター
運営委員長

戒能 信生



ゆまに書房、二〇一二年)のこの天照園開拓団は、「ルンペン移民団」と称され、直接的には一九二九年のウォール街の株価暴落に端を発した世界恐慌の余波と、当時のこの国の農村不況によって生まれた大量の失業者対策がその

背景にあると説明されて来た。しかしこの天照園開拓移民を皮切りに、東京湾の埋め立て地(深川区浜園地区)に設置された関東大震災による被災者救護施設から、その後陸続と失業者移民が満洲の地に送り込まれたという歴史的事実がある。つまり、関東大震災の被災者たちの存在と満蒙開拓移民の送出はひとつなぎに捉える必要がある。

一九二三年(大正一二年)

一九二五年(大正一四年)
治安維持法制定
一九二九年(昭和四年)
世界恐慌
一九三一年(昭和六年)
満洲事変
一九三二年(昭和七年)
最初の開拓移民「天照園開拓団」入植
すなわち関東大震災(一九三三年)から満洲事変の勃発(一九三二年、一五年戦争の開始)まで、たかだか八年でしかないのである。
東日本大震災から二年余が過ぎ、被災者たちがそのまま取り残される一方で、自民党政権が復活し、今また憲法改正が取り沙汰される現在、関東大震災から一五年戦争へとつながる歴史的経過をもう一度想起しなければならぬ。歴史は、そのままの形で繰り返されることはないであろう。しかし今、三・一一以降の時代を生きる私たちが見据えるべき課題がどこにあるか、過去の歴史が教えてくれているように思う。日本クリスチャン・アカデミーの使命も、そのことと無縁ではない。

(東駒形教会牧師)

関西セミナーハウス活動センター

●2012年度「神学生交流プログラム」第4回
「日本文化とキリスト教」
—京都におけるキリシタン文化を訪ねて—

校長・関西学院大学神学部教授 神田 健次さん
講師・日本バプテスト連盟京都洛西教会協力牧師 杉野 榮さん

2013年3月25日(月)～27日(水)



2013年3月25日(月)～27日(水)、関西セミナーハウスにて第4回神学生交流プログラムが開催されました。東京の日本聖書神学校、農村伝道神学校、ルーテル神学校、聖公会神学院、関西から同志社大学神学部、関西学院大学神学部、九州から西南大学神学部の7つの神学校から13人の神学生が参加されて、有意義な交流と学びの時が持たれました。校長の神田健次先生(関西学

院大学神学部教授)は、日本における民芸学とキリスト教の関わりを話してくださり、講師の杉野榮先生(日本バプテスト連盟京都洛西教会協力牧師)は、京都のキリシタン史研究の第一人者であられる。お二人に共通している視点は、キリスト教を土着化させることではなく、日本の文化の中に民芸としてあるいは他の宗教の中に溶け込んでいるキリスト教を発掘して、育



の教え)という表題になっている漢文の「山上の垂訓」が保存されていることなどを考え合わせても、聖書やユダヤ教、キリスト教が日本に伝えられて根付いていること、民衆の芸術「民芸」の中に色濃く影響が残っていることを否定することは出来ません。

宣教者の苦勞を思いやり、時代を超えた連帯感を持つことが出来ました。
以上のようなことが今年の神学生交流プログラムの内容でしたが、出会いや交流という面では、会が始まるとすぐ全員が親しくなり、教派を超えた仲間が出来たことは将来牧会・伝道に出ても一人一人に大きな力になると確信しました。献金で支えてくださった全国の多くの方々に感謝して、中身の濃い交流会になったことをご報告いたします。

て行くことをしなければいけないという考えでした。杉野先生は植木ではなく実生化をしなければいけないと言われていました。

わたしたちはあまりに過去の歴史に無頓着で、キリスト教は西洋の宗教であるという思い込みを持っていて、アジアで生まれたキリスト教が東の中国や朝鮮や日本に伝えられてきたことを無視しすぎです。伊勢神宮の石灯籠にダビデの紋章が付いていることやご神体の鏡には裏にヘブライ語が書かれていること、全国の神社の境内が聖書に記されている神殿と同じ配置になっていること、西本願寺に「世尊布施論」(跡継ぎが説く愛

わたしたちはあまりに過去の歴史に無頓着で、キリスト教は西洋の宗教であるという思い込みを持っていて、アジアで生まれたキリスト教が東の中国や朝鮮や日本に伝えられてきたことを無視しすぎです。伊勢神宮の石灯籠にダビデの紋章が付いていることやご神体の鏡には裏にヘブライ語が書かれていること、全国の神社の境内が聖書に記されている神殿と同じ配置になっていること、西本願寺に「世尊布施論」(跡継ぎが説く愛





●2012年度 修学院フォーラム「高齢を生きる―認知症・胃ろう・尊厳死を見据えて」第4回 「自分らしく、人間らしく」死にたい ―尊厳死・安楽死を考える―

立命館大学産業社会学部教授 大谷 いづみさん
2013年1月19日(土)

二〇一二年度修学院フォーラム「高齢を生きる」の最後は、立命館大学の 大谷 いづみ先生をお招きして、「自分らしく、人間らしく死にたい?」というタイトルのもとにお話しいただき、話しあいの時間をもった。

大谷先生はもとと東京学芸大附属高校の教員をなさっていたという。公民科の授業を担当しているときに生命倫理の授業のなかで、ある高校生が書いた「老人や重度障害

者が、社会のために、自ら「尊厳死」を選ぶように支援し導くような社会こそが、進化し

た社会である」との答案に出会い、愕然としたという。この高校生の発言には、「進化」や「支援」、「社会のため」とりわけ「尊厳死」といったポジティブな言葉が使われつつも、老人や障害者の生命を価値のない者として切り捨てるのが当然だという考えが横たわっている。ドキッとするのは、この思想を「尊厳死」という言葉で表現している点である。

一、安楽死はまずいけれど、尊厳死(治療の停止)なら自然死なのでよいと言えるのか。

二、本当に安楽死と尊厳死を分けることができるのか。

三、「安楽」や「尊厳」とい



う語が「死」と結びつくことで、どのような価値観が生まれるのか。

四、それは「権利」なのか。これについて映画「海を飛ばす夢」「ミリオン・ダラー・ベイビー」「わたしを離さないで」、また現代における安楽死や尊厳死という概念の変遷、カレン事件、報道における扱い方など多角的に分析して、お話しください。

大谷先生のお話から大きく刺激を受けた。なぜ尊厳死ある生ではなく、尊厳死なのか。尊厳というのは「生きる」とに付けられるはずだが、なぜ「死ぬ」ことに付けられる

のか。

誰しも尊厳をもって生きていきたいと願っている。死にいたるまで、最後の最後までそうありたい。惨めに死にたくないという思いは、本当は死に方というより、死ぬ直前までの生き方のことをいう。これが尊厳死という言葉になることで、われわれ一人ひとりの思い、願いと別れるところであらう。自分らしく死ななくていい、願わぬ、人間らしく死ぬという願いは裏切られる。なぜなら本当のところ、われわれは自身自身の死をなんともできないからだ。「尊厳死」の名の下、われわれ自身とは別に、誰かがこんな生は価値がないから死んでも同然で、致死してよいと思うかもしれない。最初の高校生の言葉はこれだ。あるいは個人ではなく、社会がそのように判断するかもしれない。典型的な事例はナチスの「慈悲殺」であった。さらに社会の判断、通念を受けて本人がそう思うかもしれない。しかしそれなら本当に本人が願っていることではなく、社会の判断を受けてそう

われわれは誰しも役に立ちたいと願い、迷惑をかけたくないと思っている。こうして尊厳死は、いつのまにか尊厳ある生への願いではなく、迷惑をかけたくないという消極的なものにすり替わる。しかし、誰にも迷惑をかけずに生きている人がこの世の中のどこにいるのだろうか。お互い様ではないだろうか。日本古来の「姥捨て」伝説は、じつは養老伝説であったという大谷先生の指摘も示唆的であった。本当の意味で尊厳とは何か。わたしも、死ではなく、生の事と考えたい。



プログラム案内

◆**関東活動センター**

■**聖書を読む講座**

「はじまりの聖書～旧約聖書の人間模様」

講師：吉岡康子さん(青山学院短期大学宗教授)

日時：2013年2月～6月の第3月曜日(19:00～20:30)・原則月1回 全5回

④5月20日 ⑤6月17日
*第1～3回は終了

会場：日本キリスト教会館6階会議室

参加費：1,200円/学生500円

共催：早稲田奉仕園

「聖書によれば同性愛は罪?ーわたらしい性と生のために」

講師：山口里子さん(日本フェミニスト神学・宣教センター共同ディレクター)

日時：2013年4月～12月の第2月曜日(18:30～20:00)・原則月1回 全8回

②5月13日 ③6月10日 ④7月8日 ⑤9月9日 ⑥10月7日 ⑦11月11日 ⑧12月9日
*第1回は終了

会場：日本キリスト教会館6階会議室

参加費：1,200円/学生500円
全8回8,000円/学生3,500円

共催：早稲田奉仕園

財団本部 <http://www.academy-nippon.com>
関東活動センター <http://www.academy-tokyo.com>
関西セミナーハウス <http://www.kansai-seminarhouse.com/>
関西セミナーハウス活動センター <http://www.academy-kansai.org>

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー
代表理事 小久保 正

本部事務局

〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町23
TEL 075-711-2147
FAX 075-701-5256

関東活動センター

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教会館1F
TEL 03-3207-6198
FAX 03-3207-2478
E-mail:info@academy-tokyo.com

関西セミナーハウス/

関西セミナーハウス活動センター
〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町23
FAX 075-701-5256

関西セミナーハウス

TEL 075-711-2115
E-mail:info@academy-kansai.com

関西セミナーハウス活動センター

TEL 075-711-2117
E-mail:office@academy-kansai.org

■**宗教対話プログラム**

シリーズ「キリスト教の周辺の人々」
「海舟と論吉がキリスト教に求めたもの」

講師：鈴木健次さん(NHK会友、大正大学名誉教授)

日時：2013年6月21日(金)
18:30～20:30

会場：日本キリスト教会館

参加費：1,000円/学生500円

シリーズ「今、悲しみの最前線で」
「在宅ホスピスの現場から見た医の原点」

講師：川越厚さん(元賛育会病院院長、在宅ケア支援グループ・パリアン代表)

日時：2013年7月20日(土)
14:00～16:30

会場：日本キリスト教会館

参加費：1,000円/学生500円

◆**関西セミナーハウス 修学院きらら山荘**

■**能を楽しむタペ in 修学院きらら山荘**

第9回 能『卒都婆小町』

日時：2013年5月31日(金)
17:30～

第10回 能『山姥』

日時：2013年7月19日(金)
17:30～

解説・出演：林宗一郎さん(観世流能楽師)

会場：関西セミナーハウス

各定員：50名

能観賞料金：1,500円/大学生
1,000円/中学生 800円

小学生以下無料(ご宿泊の方は無料)

■**林宗一郎を囲んでの懇親会**

日時：上記各回能楽鑑賞後

会場：関西セミナーハウス 茶室 清心庵

費用：1,000円/大学生900円
/小中高生800円

■**月釜 清心会**

毎月第2日曜(但し、6月、3月第3日曜)1、8月を除く年10回

9:00～15:00 受付

於：関西セミナーハウス

年会費：5,000円、臨時会費1,000円

◆**関西セミナーハウス活動センター**

■**お茶のこころと宗教のこころ**

2013年度第1回「お茶のこころとキリスト教信仰のこころ」

講師：西川和江さん(単立岸和田栄光教会伝道師)

日時：2013年5月20日(月)
13:30～16:30

会場：関西セミナーハウス

参加費：2,000円(抹茶込)

■**開発教育セミナー**

2013年度第1回「開発教育入門セミナー」(協力プログラム)

主催：(独)国際協力機構関西国際センター(JICA関西)、(公財)京都市国際交流協会

会場：京都市国際交流会館

日時：2013年6月23日(日)
10:00～16:30

参加費：無料(要申込み)

申込先：JICA 関西

■**開発教育セミナー**

2013年度第2回「世界の中のパレスチナとイスラエル

～ガザで生きる人々に光をあてて～

講師：古居みづえさん(アジアプレス)

日時：2013年6月29日(土)
16:00～30日(日)12:00

会場：関西セミナーハウス

参加費：10,500円(1泊2食込)

■**2013年度修学院フォーラム**

「いのち」一生、老、病、死を考える
第2回「私たちに死ぬ権利は必要なのか」

講師：川口有美子さん(日本ALS(筋萎縮性側索硬化症)協会理事)

日時：2013年7月13日(土)
13:30～17:30

会場：関西セミナーハウス

参加費：1,000円/学生500円

賛助会費・後援会費・寄付金報告

2013年3月1日～2013年3月31日
(順不同・敬称略)

◆**関東活動センター**

賛助会費

早稲田奉仕園 300,000
遠藤 育男 10,000

クリスマス募金

日本聖書神学校学生自治会 4,000

◆**関西セミナーハウス活動センター**

賛助会費

長村 光造 3,000

西村 久代 5,000

寄付金(クリスマス寄付金を含む)

日本キリスト教団経堂緑岡教会 10,000
斉藤 洋子 2,000
日本基督教団京都教会 20,000
日本バプテスト連盟京都洛西教会 10,000

◆**第4回神学生交流プログラム募金**

日本基督教団天満教会 10,000
日野多栄子 3,000

以上、感謝をもってご報告申し上げます。